



那覇市立 神原中学校



神中だより 第3号

令和 2年 6月17日






平和旬間(6/15～7/3)の取り組み

平和集会 6月12日(金) 校内放送

6月23日の慰霊の日を前に、6月12日(金)校内放送で、平和や戦争について考える時間として平和集会を実施しました。

はじめに生徒会の放送委員から「今の当たり前幸せな暮らしは、75年前に沖縄戦で辛い体験をした多くの沖縄県民が、悲劇を二度と繰り返さないという強い決意のもとに成り立っている」という説明があり、昔のことと戦争を他人事に考えるのではなく、平和を受け継いでいくという県民の一員として、今日の集会には参加してほしいという思いが伝えられました。

その後、各学級において語り部の壺屋町民会の島袋文雄自治会長の紹介の後、インタビュー形式の映像を通して、壺屋地域の方々が、戦時中にとどのような行動をとったのか、また、戦争を体験した島袋文雄さんは、どのような想いを持っておられるのかを戦争体験の話を通して学ぶ機会としました。



新学期早々、新型コロナウイルス感染拡大のため、新生活様式が求められるなど、不安なことも多い世の中になってきていますが、今日のこの時間が、みなさんにとって平和を考える貴重な時間となることを願います…。最後に平和への願いを込め一人ひとりが折った折り鶴は、図書館に展示しています。

神原中学校 生徒会より



神原中学校「平和宣言」

【生徒会】

あの戦争から75年が経ちました。4人に1人の県民が亡くなった沖縄戦。昭和、平成、令和と時代は変化していきますが、平和を求め続ける私たちの心は変わりません。

【全校生徒】

私たちは、優しい心を持ち、他人を思いやることを心がけます。私たちは、あたりまえの生活を過ごしていることに感謝し、日々の生活を送ります。私たちは、二度と同じ悲しみを繰り返さぬよう、沖縄戦の悲劇と不戦の誓いを語り継いでいきます。

【生徒会】

私たち神原中学校生徒は、これからも平和について考え、自ら行動することを誓い、これを神原中学校平和宣言とします。 2020年6月12日

「戦争と沖縄」 沖縄戦写真パネル展示中

図書館では、コロナ対策をとりながら6/1～12までを「読書旬間」とし、しばらくの間、本の貸し出しを5冊まで借りることができます。また、6月15日から7月3日までの平和学習旬間では、「命、平和について考えるいて考える」という趣旨で沖縄戦のパネル展や戦争や平和について知るための資料や本を準備しております。



	月	火	水	木	金
1 図書 本の貸出	3-2	2-2	1-3	3-1	2-3
2 図書 本の貸出	2-3	3-3	1-2	3-2	1-1
3 図書 本の貸出	2-1	3-1	1-1	3-3	1-2
4 図書 本の貸出				2-2	1-3
5 図書 本の貸出				2-1	

昨年のこの時期に平和学習旬間が始まるので、「アンネの日記」を再度、読み返してみようと準備していたら、娘（現在高3）から、「縞模様（しまもよう）のパジャマの少年」を薦められ、読んでみました。

物語は、第2次世界中のドイツのベルリンで、何不自由なく暮らしていた少年ブルーノ（9歳）が、父親（ドイツ軍の司令官）の職場でもある収容所の近くに家族とともに引っ越すというところから始まります。

異国の地で、友人のいないブルーノは、フェンス越しに見える収容所の人々を観察しているとそこに自分と同じくらいのパジャマの少年（シュムエル）と出会い、交流を重ねるうちに親しくなっていく。その場面ごとに当時のドイツの人々の生活や考えなどがわかりやすく著されています。

1年以上の月日が過ぎ、ブルーノは、ベルリンに引っ越すことになり、シュムエルとの残された時間を行方不明になったシュムエルの父親を探すため、フェンスの中に入ることとなり、ブルーノの服装をシュムエルと同じ縞模様のパジャマを準備して、中に入る計画を進めていく...。という内容です。

当時のホロコースト（大量虐殺）について知らない人も読んで理解できるような内容です。

また、歴史の勉強をした生徒も大人にとっても、登場人物や出来事、当時の人々の考え方など、歴史の事実とも重ね合わせて読むことができる物語です。

本校の図書館にも「シークレット・カメラ」やホロコーストに関係の図書も多数あります。人として大切なことは何かを本や資料を通して神原中学校の生徒に是非、考えて欲しいです
神原中学校 校長 馬上昇